

つげさん（貝塚市）のお財布事情



もくじ

財政ってなに？

P1

最近のお金の使い道
は？

P2

ローンは
どれくらい？

P3

貯金はどれくらい？

P4

ローンの負担は
大きすぎない？

P5

他のお財布への
仕送りは？

P6

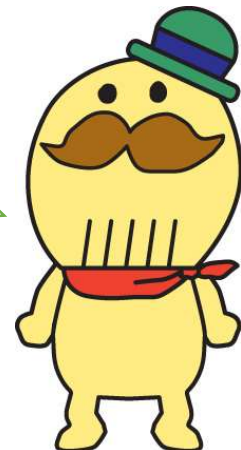
これからの貝塚の
まちを考えよう！

P7

お財布事情を
家計簿でみよう！

P8

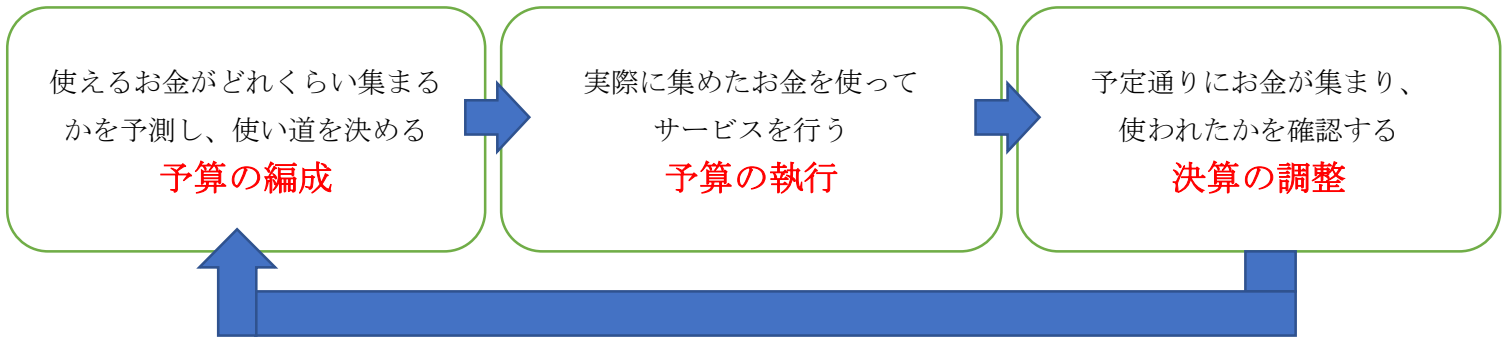
本資料では、貝塚市の財政状況をわかりやすく解説しているよ。これからの貝塚のまちをより良くするために、限られたお金をどう使うか、一緒に考えよう！



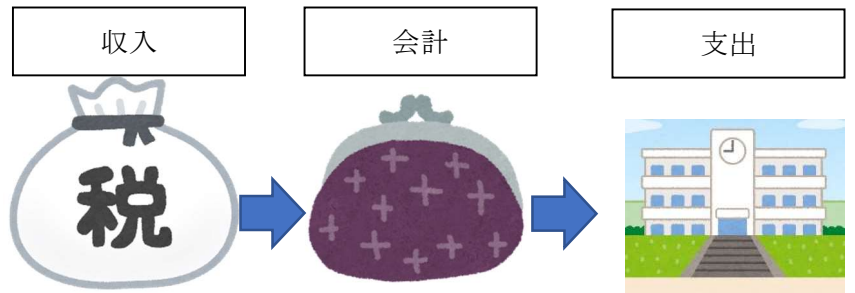
財政ってなに？～財政の仕組みと会計の種類～

市では、市民の暮らしを支えるために、学校や認定こども園の運営、道路や下水道の整備、ごみ収集など、さまざまなサービスを行っています。

これらのサービスを効率的に行うための「お金のやりくり」を**財政**といいます。



サービスを行うためのお金を管理するお財布を**会計**と呼び、市に入ってくるお金を**収入**、市が使うお金を**支出**といいます。また、一年間の収入を**歳入**、支出を**歳出**といいます。

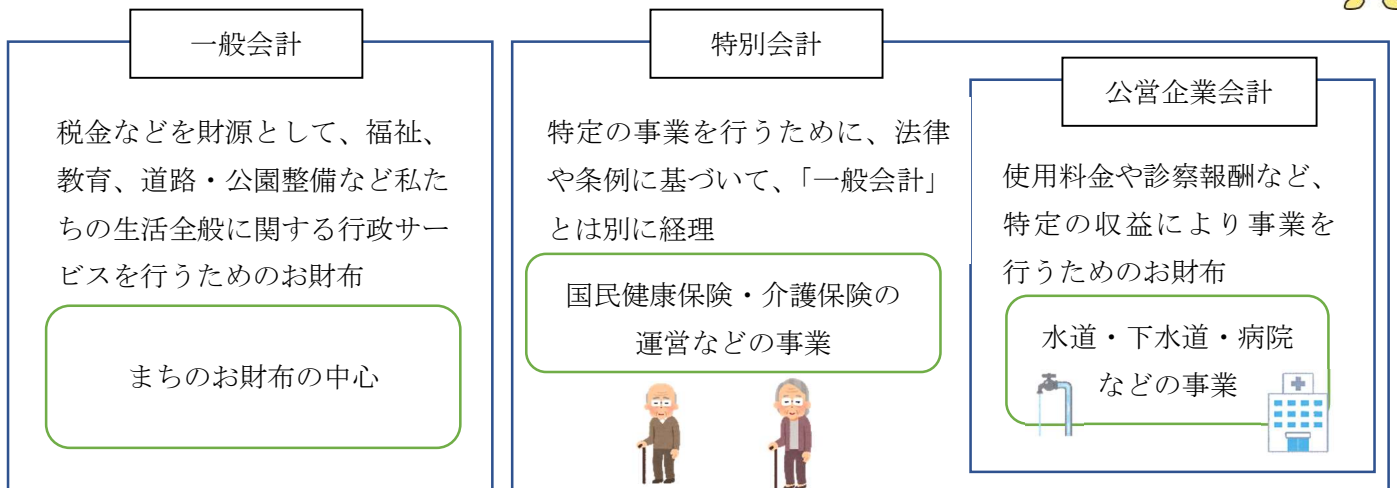


どんなお財布があるの？

市のお財布は、大きく**一般会計**と**特別会計**に分かれます。

サービスの性質によってお金を管理し、お財布ごとに収支を明確にしているのです。

特別会計の中でも、収益性のある事業に係る会計を**公営企業会計**といいます。



最近のお金の使い道は？

社会保障の支出が増加

老朽化した公共施設への支出が増加

市の支出経費には以下のような種類があります。

扶助費：生活に困っている方や障害のある方、子育て世帯などを援助するためのお金

人件費：職員の給料・退職金などにかかるお金

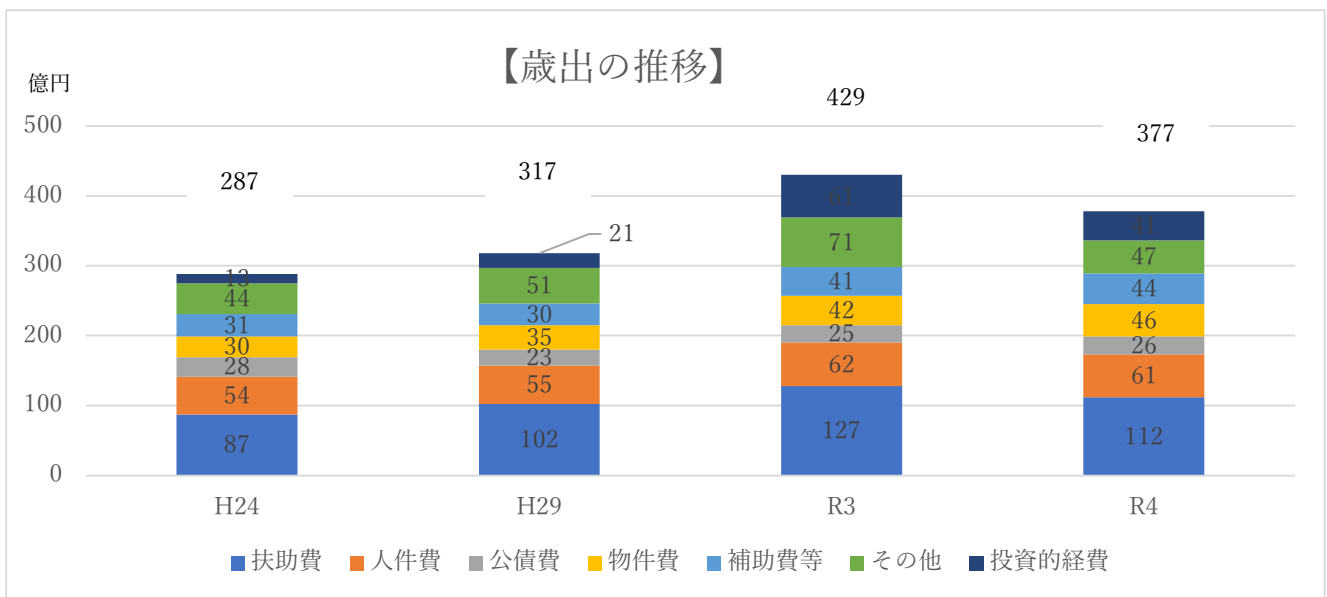
公債費：市の借金を返済するためのお金

物件費：文房具など物品の購入や光熱水費、委託料など、消費的性質のお金

補助費等：住民や関係団体等を補助するために支払うお金

投資的経費：道路や学校の建設工事などにかかるお金

扶助費・人件費・公債費は義務的経費と言われ、毎年の支出が義務付けられており、削減が難しい経費です。増えると、財政のゆとりが少なくなってしまうます。



近年の傾向としては、**扶助費**が支出の約30%を占め、10年前（平成24年度）と比べると、約25億円増えています。なお、令和3年度に歳出総額が大きく増えているのは、子育て世帯への臨時特別給付金支給事業や非課税世帯等臨時給付金事業により**扶助費**が増加した事、新庁舎建替えのため**投資的経費**が大きく増加した事が理由としてあげられます。令和4年度は上記事業の減少により歳出総額は減少しています。

今後は、公共施設の老朽化対策に多くの費用が必要になります。公共施設の建替えなどをする場合、投資的経費が発生し、その財源として**地方債**（3ページ参照）を発行すると、後年度に借金を返すため、公債費も増加していくこととなるので、計画的に取り組んでいくことが求められます。

借金ってどれくらいあるのかな～？

いっぱいあったら将来不安だな～

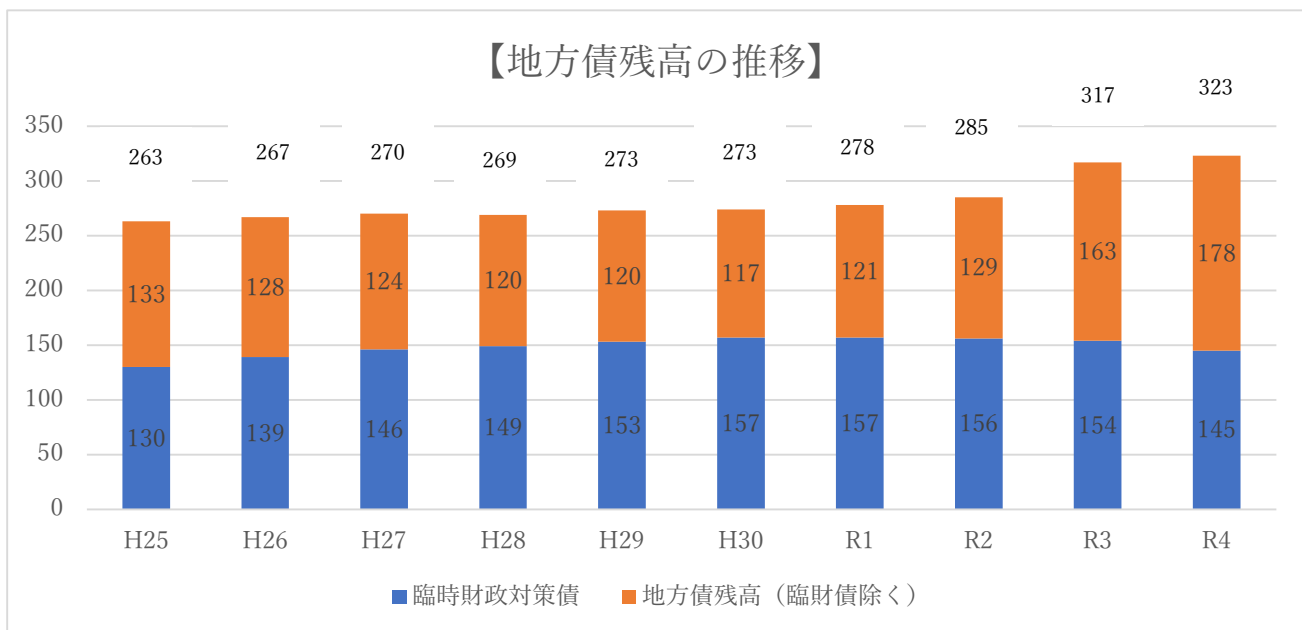


ローン（借金）はどれくらい？

R3.4 年度に増加。今後、減少に努める。

地方債は、市が公共施設整備などの資金を、国や金融機関などから借り入れる、家計でいうところのローンのようなものです。「臨時財政対策債」（青色棒グラフ）は、国が地方交付税を全額準備できない場合に、足りない分を地方自治体に借金させる形で一旦補い、後から地方交付税として交付するもので、特例債と呼ばれています。

令和2年度までの地方債残高は **270 から 280 億円**前後で推移していましたが、令和3.4年度に新庁舎整備事業による地方債の発行を行ったため、地方債残高は増加しています。



今後は、将来世代への過度な負担を残さないように持続可能で安定した財政運営に努めてきます。



なんで借金するんだろ～？



○ 毎年の支出を平たんにするため

⇒借金をせずに1年で多額の建設費を支払うと、その年は他のサービスのためのお金がなくなってしまいます。

○ 現在の市民と、将来の市民の負担を公平にするため

⇒借金をせずに1年で多額の建設費を支払うと、現在の市民だけが負担することになってしまいます。

☆赤字債は発行することができない

⇒原則赤字を補てんするための借金はできません。基本的には上記2つの理由を基に建設費に対してのみ借金ができます。

貯金はどれくらい？～財政調整基金～

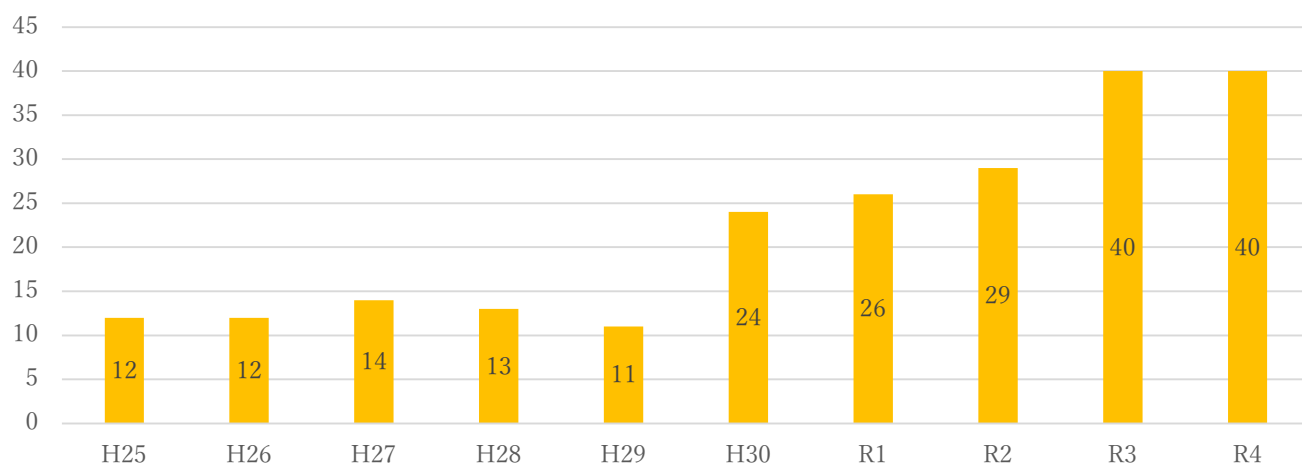
貯金額は近年増加傾向だが、油断できない

市が健全な財政運営を行うための蓄えを**基金**といいます。家計でいうところの貯金にあたります。基金には、大きく分けて3種類あります。財政調整基金・減債基金・特定目的基金です。ここでは、主に**財政調整基金**を見ていきます。

市では、災害等の不測の事態による突然の支出や景気の悪化で収入が減ったときに、お金の不足を補てんするために積み立てを行っています。この積み立てている基金を財政調整基金といいます。

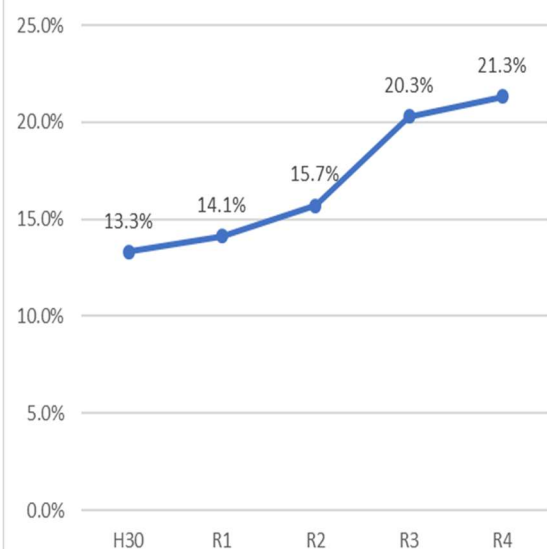
直近10年間では、平成29年度まではあまり増減せず、平成30年度に急増し、その後は増加しています。平成25年度と令和4年度を比較すると**約30億円増加**しています。

【財政調整基金残高の推移】



【財政調整基金/標準財政規模の割合】

(直近5カ年推移)



どれくらい貯金したらいいの？



具体的な指標はありませんが、「標準財政規模」(市が毎年安定して得られる収入)に対して、一定割合を目標にする市町村が多く、一般的に「**5~20%**」とされています。

直近5カ年推移では、令和3年度に4.6%上昇しました。これは、**普通交付税の増加等で実質収支が黒字となり、財政調整基金に積み立てたことが大きな要因**です。**貝塚市の税収が大きく改善した訳ではない**ので、歳出の抑制や税収が増えるような施策を実行し、水準を維持できるように努めないといけません。

ローンの負担は大きすぎない？

～実質公債費比率・将来負担比率～

ローンは残っているが健全な財政運営ができています

実質公債費比率は、**ローン返済にどれくらい使っているか**の指標で、将来負担比率は、**これからのローン返済にどれくらい使うか**の指標です。

「早期健全化基準」(イエローカード)・「財政再生基準」(レッドカード)(※将来負担比率はなし)が設けられており、基準を超えると、借金をする際に制限がかかるなど、国の関与のもとで財政運営をしていかないといけなくなります。

早期健全化基準に至った時点で、非常に厳しい財政状況に陥っているため、早期健全化基準に至らなくても健全な財政運営を心掛ける必要があります。

計算式

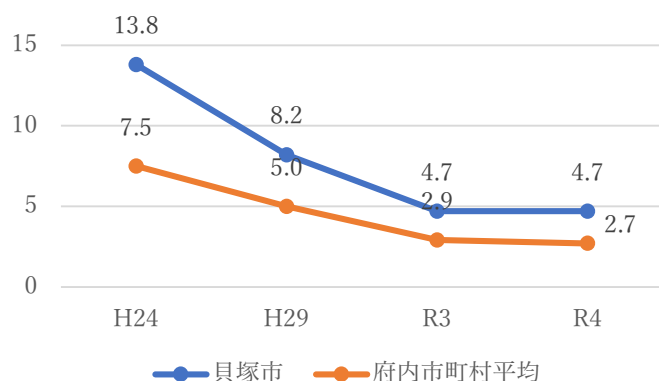
【実質公債費比率】

$$\frac{\text{借金返済に使ったお金}}{\text{自由に使えるお金}} \times 100$$

【将来負担比率】

$$\frac{\text{これから借金返済に使うお金}}{\text{自由に使えるお金}} \times 100$$

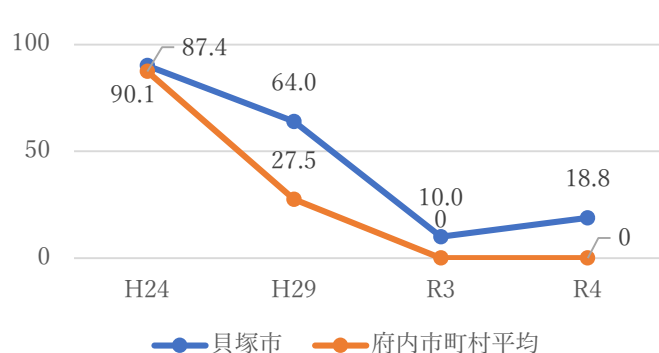
【実質公債費比率の推移】



貝塚市の実質公債費比率は、令和4年度決算では**4.7%**であり、横ばいになっています。

府内市町村平均と比べると、高い水準ですが、**早期健全化基準を大きく下回る水準にあります。**

【将来負担比率の推移】



貝塚市の将来負担比率は、令和4年度決算では**18.8%**であり、**早期健全化基準を大きく下回る水準にあります。**

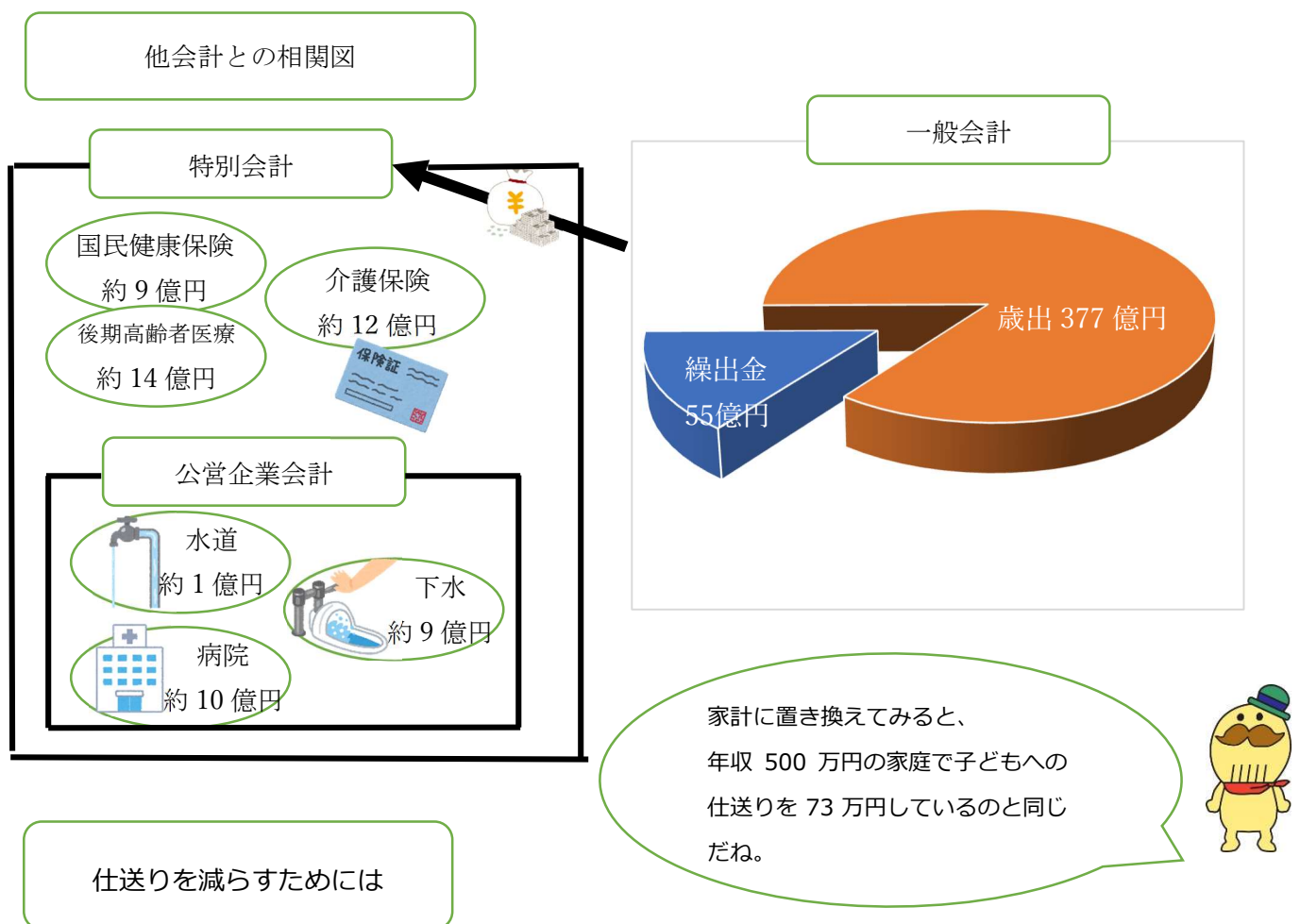
令和3年度と比較すると、新庁舎整備の将来負担すべき経費を計上したため悪化しています。今後、**公共施設等マネジメントの推進**により投資事業の抑制を行い、比率が悪化しないように努めます。

他のお財布への仕送りは？～繰出金の状況～

市町村のお財布には、**一般会計**以外に**特別会計**があり、その中には**公営企業会計**があります(1 ページ参照)。一般会計と特別会計は別々のお財布ですが、一般会計のお財布から特別会計のお財布へ**仕送りすること**があります。これを**繰出金**といいます。

例えば、特別会計である下水道事業会計は、事業の経費を税金ではなく、下水道の使用料でまかなうのが原則ですが、一般会計のお財布で負担すべき性質の経費もあるため、仕送りをしています。

下の図は、一般会計から他会計への仕送りの状況です。一般会計の歳出のうち、**約 14.6%**が他会計への仕送りに使われています。



仕送りを減らすためには

仕送りの内容には、職員の人件費などの一般会計が負担すると決まっているお金と、特別会計や公営企業会計の赤字を埋め合わせるためのお金の 2 種類があります。本来は自らの収入でまかなう部分を一般会計で埋め合わせると、福祉・教育・道路整備など、他の行政サービスに影響を及ぼしてしまう可能性があります。

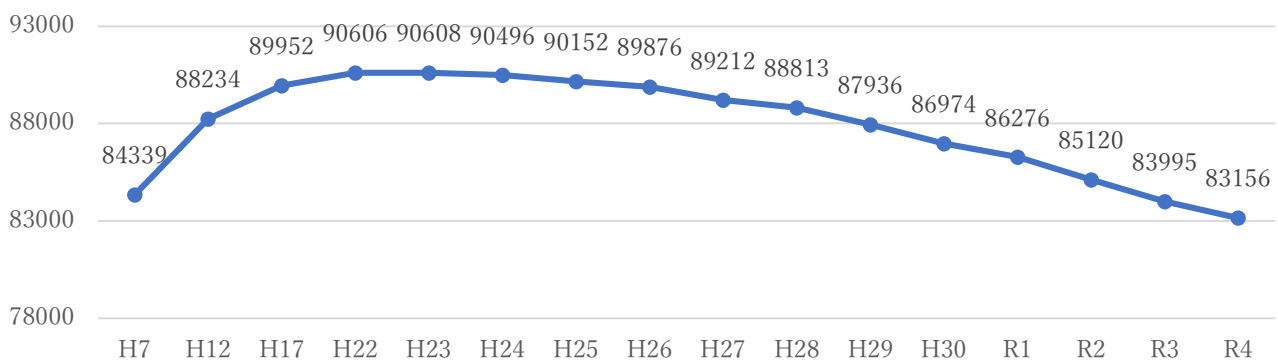
仕送りを減らすためには、各会計の収入を増やす必要があります。つまり、**水道料金や下水道料金などの市民の皆様の負担が増加すること**になります。本来であれば、使用料などを増やして自らの収入でまかなうようにすべきですが、市民の皆様への負担を考えると、慎重に検討していく必要があります。

これからの貝塚のまちを考えよう！

人口減少

貝塚市の人口は平成23年頃をピークに減少しており、令和4年12月末は83,156人となっています。平成23年の90,608人と比べて、7,452人減少しています。それに反して、高齢者人口は増加傾向にあり、平成23年と比べて、3,511人増加しています。令和4年度の高齢化率は27.4%となっており、人口の約4人に1人が高齢者となっています。

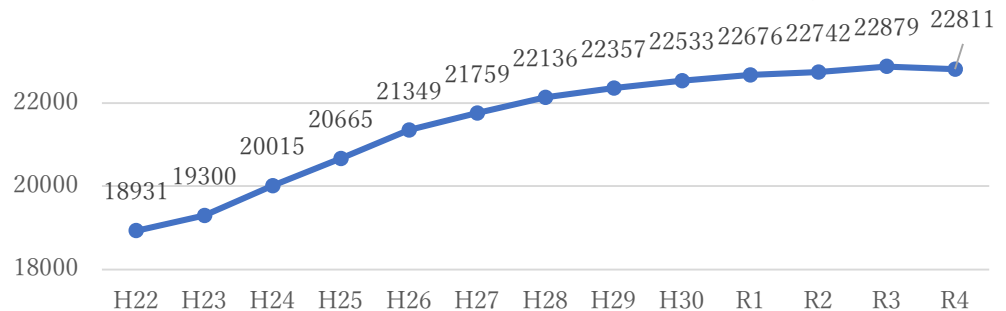
【貝塚市の人口推移】（各年12月末時点）



課題

人口減少に伴う**税収の減少**や、高齢化に伴う**社会保障経費の増加**による財政の圧迫が考えられます。

【貝塚市の高齢者人口推移】（各年12月末時点）



公共施設の老朽化

人口の減少は避けがたいため、すべての公共施設を現状のまま運営していくことは困難です。公共施設の老朽化に対して、改修や建替えのみでなく、**統合・廃止・複合化**を進めていく必要があります。

施設の統廃合は、市民の皆様の生活に大きく

影響するから、慎重に検討しないとね。



お財布事情を家計簿でみよう！

最近の貝塚市のお財布事情を身近に感じてもらえるように、年収 500 万円の家計簿に置き換えてみました。内訳はどうなっているでしょう？

収入は、給与やパート収入のほか、ローン収入や親からの援助もあります。支出は、食費よりも、医療費や子どもの保育料の方が多そうですね。気になる項目を見てみましょう！



- 給与(基本給)：地方税
- 給与(手当・ボーナス)：地方交付税、譲与税
- 親からの援助：国・府支出金
- パート収入：使用料・手数料、寄附金など
- 貯金引き出し：基金からの取り崩し
- 繰越金：前年度からの繰越金
- ローン借入：地方債
- 医療費・保育料：扶助費
- 食費：人件費
- ローン返済：公債費
- 光熱水費・日用品：物件費
- 貯金：積立金
- 仕送りなど：繰出金、補助費等
- 家の増改築費：投資的経費、維持補修費

☆現状として財政の健全性は維持されていますが、将来にわたって安定して持続可能な行財政基盤を構築するために、**第三次貝塚新生プラン**(ホームページ参照)を着実に実行していきます。